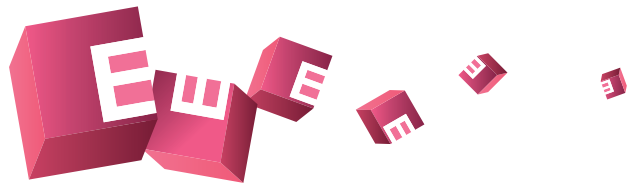




Event / Seminar Report

イベント / セミナー・レポート



ご報告

Embedded Technology 2014 出展のご報告

Embedded Technology 2014

2014年11月19日(水)～21日(金)の3日間、パシフィコ横浜にて「Embedded Technology 2014」が開催されました。シノプシスは、今年も多彩なデモンストレーションやステージで組み込みSW開発期間 / システム設計期間短縮のための最新テクノロジーをご紹介しました。

ARM関連ソリューション展示エリアでは、ARMベース デザインの品質向上と開発期間短縮を実現する、システム開発 SW開発～チップ実装までのソリューションをご紹介しました。ARMベース SoC検証のデバッグ時間を削減するHW / SW協調デバッグ ソリューション (Verdi[®])、ARMv7 / v8ベース デザインのための早期SW開発環境であるバーチャルプロトタイピング システム (Virtualizer Development Kit for ARM)、ARMベース デザインの試作ボード完成前に実際のSW動作を確認可能にするハイブリッド エミュレーション環境 (ZeBu + Virtualizer)、ARMプロセッサ コアも含めたシステム全体を搭載可能なハイブリッド プロトタイピング システム (HAPS + Virtualizer)、ARMプロセッサ コアの高性能化、低消費電力化を実現するARMコア ハードニング フローなど、ARMベースのチップ開発に欠かせない最新ソリューションをご覧いただきました。

シノプシス・ソリューション展示エリアでは、IPやシステムを短期で実装し早期SW開発を実現するためのソリューションならびに製品差別化の鍵となるASIP開発環境などをご紹介しました。IP導入とSW開発を加速するIPパリテーション / SW開発環境 (DesignWare IP Prototyping Kit)、柔軟な拡張性でプロトタイピングにかかる手間とコストを削減するFPGAベース プロトタイピング システム (HAPS-70 / HAPS-DX)、製品差別化の鍵となるカスタムプロセッサ / DSP設計開発環境 (IP Designer / Processor Designer) など組み込みSWやシステム開発の効率化を実現する開発環境をご紹介しました。

パートナー・ソリューション展示エリアでは、シノプシスとパートナー企業各社との強力なコラボレーションをご紹介。富士通セミコンダクター株式会社様によるカスタムSoC向けプラットフォーム評価環境、MathWorks[®] Japan様のMATLAB[®] / Simulink[®] モデルを用いたVCSの検証ソリューション、そしてルネサス エレクトロニクス株式会社様によるRenesas RH850ファミリー向けVirtualizer Development Kitのご紹介など、パートナー各社との協調ソリューションをご覧いただきました。

ブースステージでは、シノプシス×パートナーの協調ソリューション、そしてシノプシスのシステム開発ソリューションの新着情報を15分間に濃縮してご紹介しました。



ステージでご講演いただいたパートナー各社

アーム株式会社

バーチャルプロトタイプを使用した ARMv8システム上での有効なソフトウェアのデバッグと検証

フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン株式会社

車載マイコンの動向とモデル開発の必要性について

富士通セミコンダクター株式会社

プラットフォームSoCソリューション

MathWorks Japan

アルゴリズムとRTLを統合!! FPGA / ASICのためのモデルベース検証環境

ルネサス システムデザイン株式会社

車載マイコンRH850と開発環境のご紹介

ベリフィケーション・セミナー 2014開催のご報告

2014年10月17日(金) グランドプリンスホテル新高輪において、ベリフィケーション セミナー2014を開催いたしました。



2014年9月に発表いたしましたVerification Continuumを含め、シノプシスの検証技術の方向性についてご説明した後、フォーマル検証テクノロジー、高機能デバッグツールVerdi[®]、検証用IP (VIP)、エミュレータZeBuの各セッションにて、シノプシスの機能検証ツールの最新情報をお届けいたしました。

フォーマル検証のセッションでは、新製品VC Formalの概要およびVC Formalとミューテーション技術であるCertitudeを組み合わせた検証手法、大規模SoCで必要とされる接続性検証の事例をご紹介しました。

Verdi[®]のセッションでは、「こんなこともできるんです。Verdiのあれこれ」と題し、ベリフィケーションの範囲に限らず、Verdi[®]がいかに様々な形でシノプシスならびに他社の各ツールとつながっており、使い勝手の良さを実現しているかをご紹介しました。

VIPのセッション前半は、AXI、DDRのVIPを用いたブロック、サブシステム、チップレベルで再利用を可能にするスコアボードの実装テクニックをご紹介しました。後半では、IPのR&Dエンジニアより、最新LPDDR4デバイス対応DWC uMCTL2 IP Core開発ヒストリをご紹介し、VIPならびにIPに関するシノプシスの取り組みについてもご説明いたしました。

エミュレータに関しては、2014年2月に生まれ変わったZeBu Server-3のデモ展示を行ったほか、「業界最速論理エミュレータ ZeBu ~ Faster! and Easier!」というキャッチフレーズのもと、ZeBu Server-3の性能と最新ソフトウェアでの強化点をご説明いたしました。

また、コニカミノルタ株式会社様より、VirtualizerとZeBuのHybrid Emulation環境を活用したソフトウェア検証の事例を中心に、Hybrid Emulation環境の構築ノウハウと適用効果についてご講演をいただきました。ユーザー様ならではの詳細で貴重なご体験や成果のご発表に、ご出席の皆様から多くの質問が寄せられました。

Saberセミナー名古屋 開催のご報告

2014年10月31日(金) 名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、Saberセミナーを開催いたしました。

本セミナーでは、Saber 2014.12の最新テクノロジーを中心に、ECU回路の機能安全と故障シミュレーション、インバータ回路のEMI / EMC解析、高精度なモータドライブシステム開発、そして地球外で使用される掘削システム向けマルチフィジックス シミュレーション技術などについて、お客様による設計事例や弊社パートナー各社によるSaberとの強力な連携ソリューションとともにご紹介いたしました。

今回事例をご発表いただきました日立オートモティブシステムズ株式会社様からは、従来取り組んでおられたMBD (Model Based Development) 手法をさらに発展させ、テストカバレッジおよびテスト効率の向上を目的に、仮想ECU (Electronic Control Unit) を応用した車載制御システムテスト環境の導入を進める中で、仮想ECUのマイコンモデルにはVirtualizer、ECU回路モデルにはSaberRDをご利用いただいております。今回その最新活用状況をご紹介いただきました。

またパートナー各社からも、シノプシス ツールとの連携により、設計の効率化と信頼性を高めるソリューションやケース スタディを紹介いただきました。

株式会社JSOL様からは、電磁界解析ソフトウェアJMAG[®]と、モータ設計者が作成したモータ モデルの特性をそのままSaberに取り込むことを可能にしたソリューションJMAG-RTをご紹介いただきました。

ChiasTek様からは、仏ALTRAN社による過酷な環境下での掘削システム向け電気、熱シミュレーションのケース スタディをご紹介いただき、宇宙探査における掘削システムの設計前段階で実施する「バス」コ シミュレーションに基づくマルチフィジックスアプローチの利点についてご説明いただきました。シノプシスSaberと、ChiasTek社の専用通信バスCosMateとの連携により、最終的な環境下で機能するシステムの理解を向上し、設計の信頼性を高めた事例をご紹介いただきました。

AZAPA株式会社様からは、SaberRDを活用して実施したモビリティ開発のモデル化の事例をご紹介いただくとともに、SaberRDのFMEA故障挿入機能を使った機能安全への対応について講演いただきました。

たくさんのお客様にご参加いただきました。誠にありがとうございました